

弘前大学と弘前市との連携調査研究委託モデル事業

外部人材を通じた
地域再生アクション・リサーチ

弘前大学大学院地域社会研究科
准教授 平井太郎

2014年3月18日@ヒロロ

2

調査の背景と目的

24年度調査の成果

相馬地区での外部人材
導入の機運醸成

弘前市農業政策課の課題

- (1) 移住・定住施策の不発
- (2) りんご農家後継者不足

全国の外部人材制度の課題

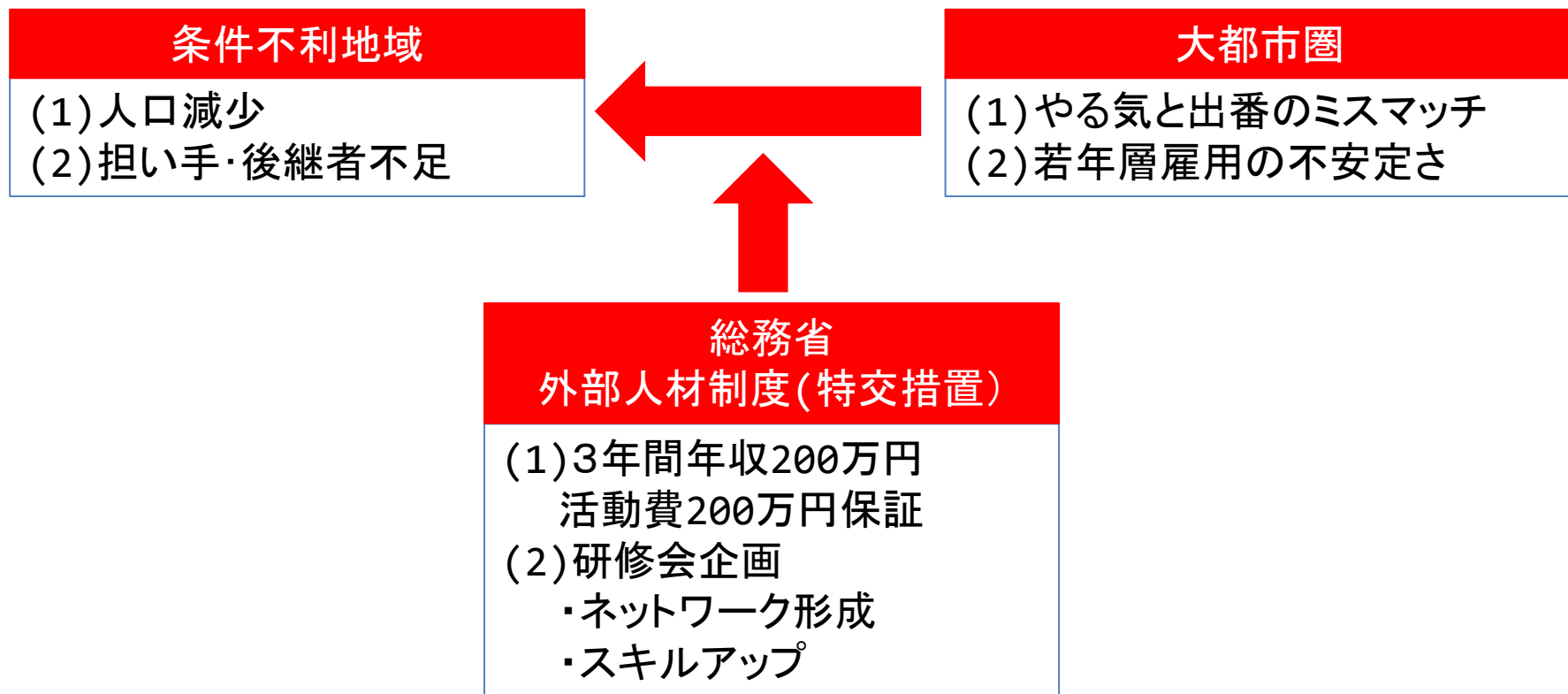
- (1) 地域・行政による
ビジョン共有の欠如
- (2) 地域・行政による
受入体制の欠如

25年度調査

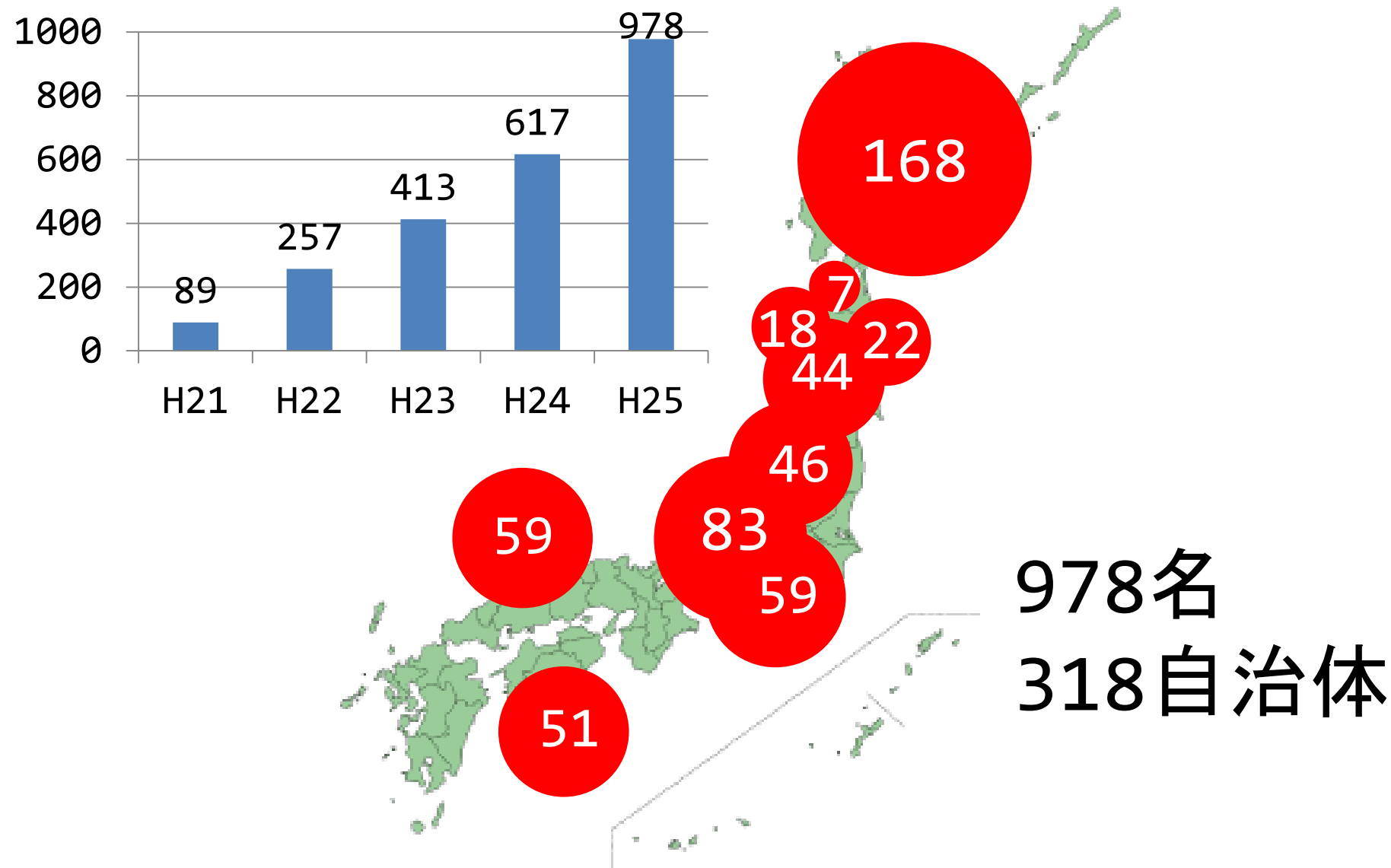
- (1) 相馬地区をモデルとした
地域・行政による
受入計画・体制整備
- (2) 相馬以外の地区での
外部人材導入の探索

3

外部人材制度とは

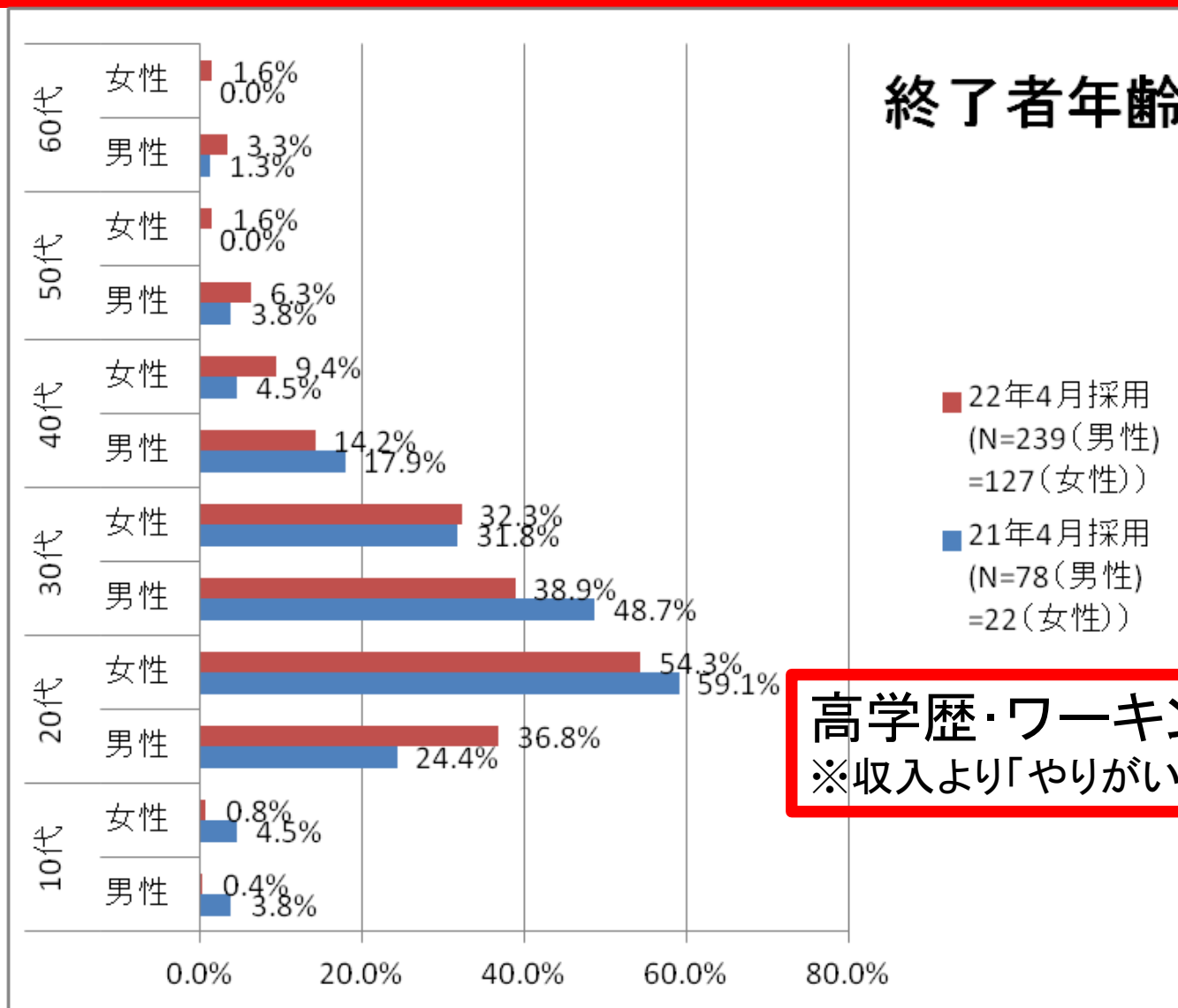


4 全国で広がる外部人材



5

誰が来るのか

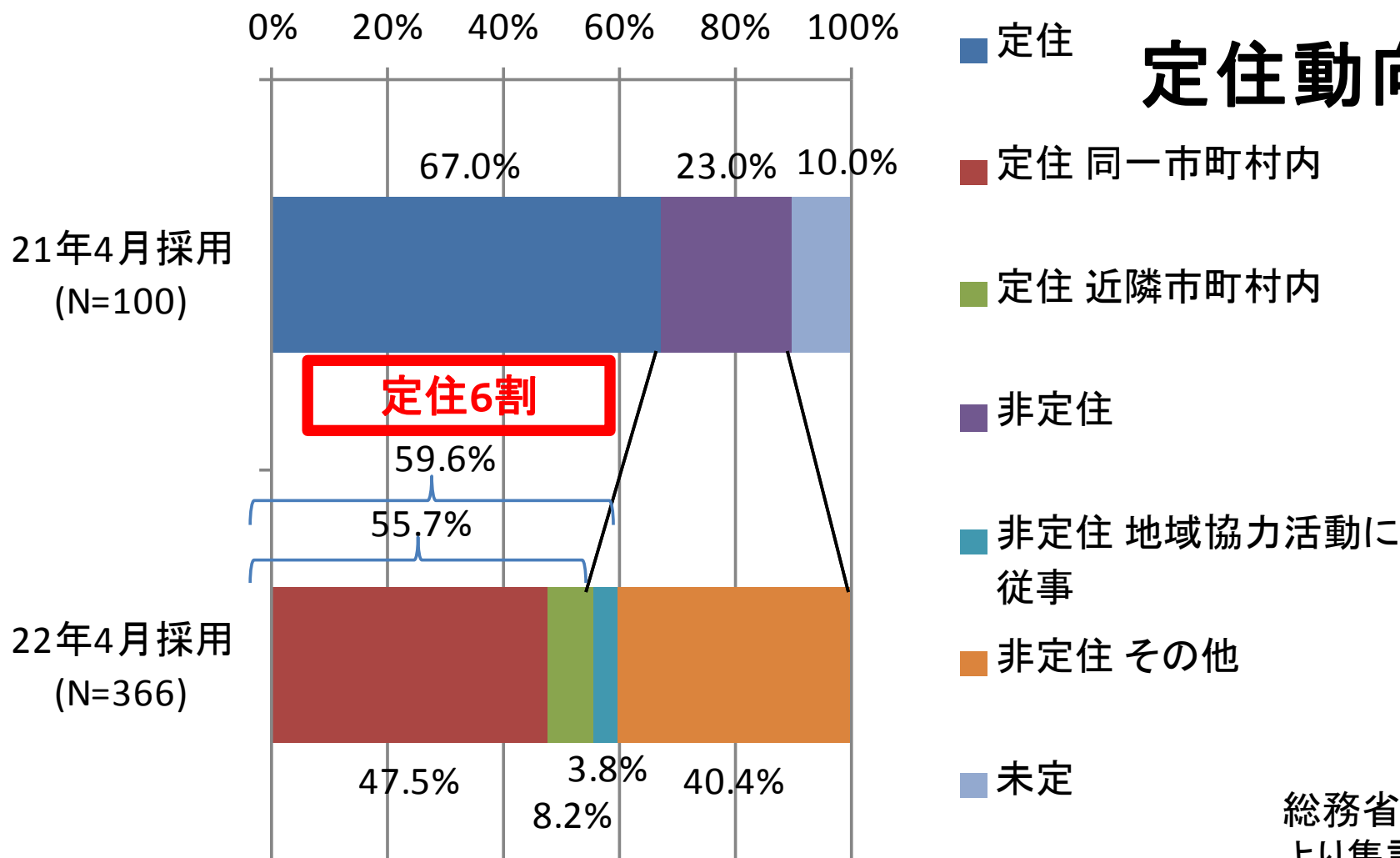


総務省調査
より集計

6

定住するのか

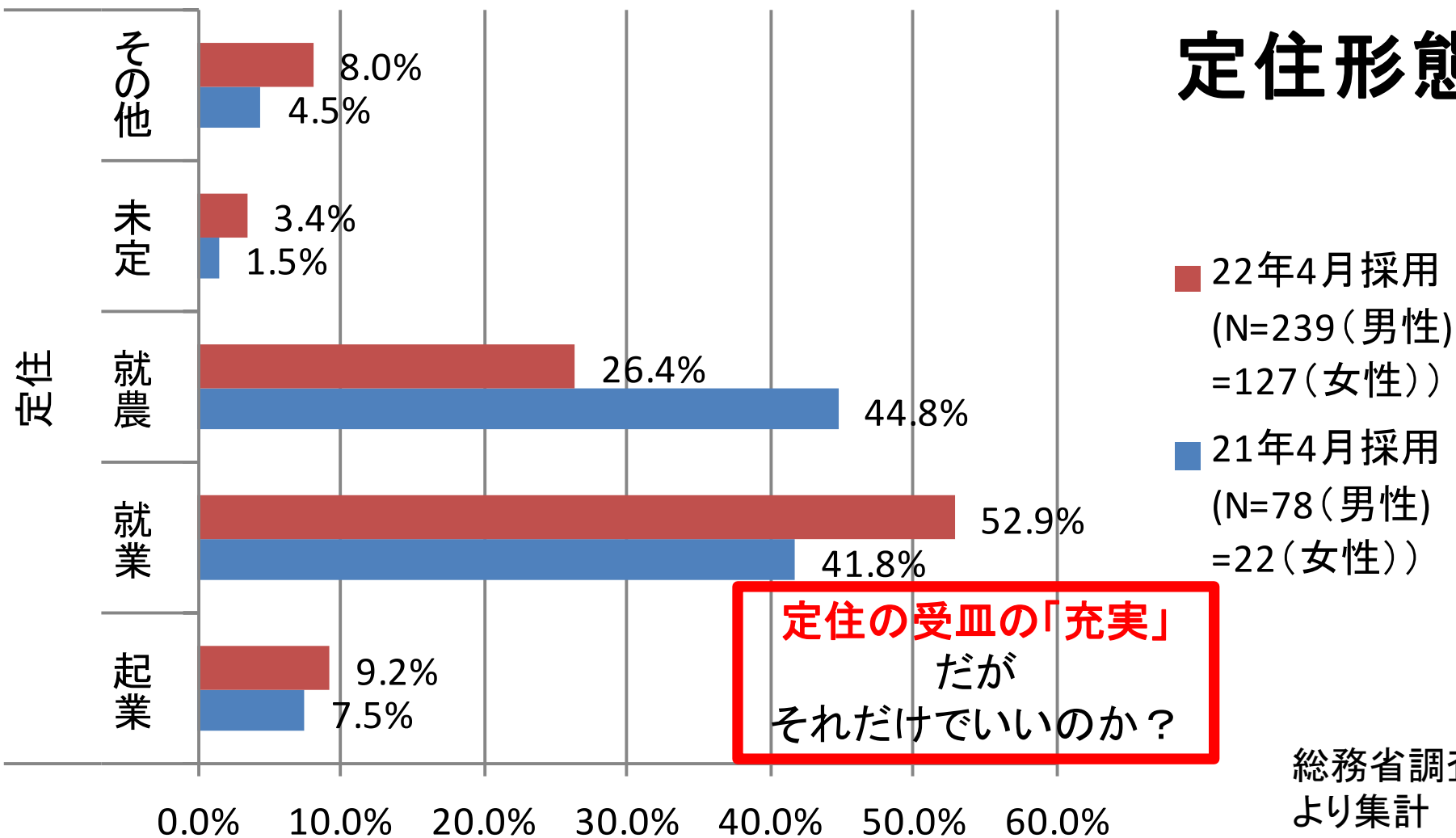
定住動向



総務省調査
より集計

7

どう定住するのか



8

外部人材制度の課題

任期前離職者が少なくない

たしかに定住の受皿は充実してきた

本当に「地域」おこしになっているのか？

地域と行政で
どういう地域にしたいために
どういう人材がほしいか
議論がされていない

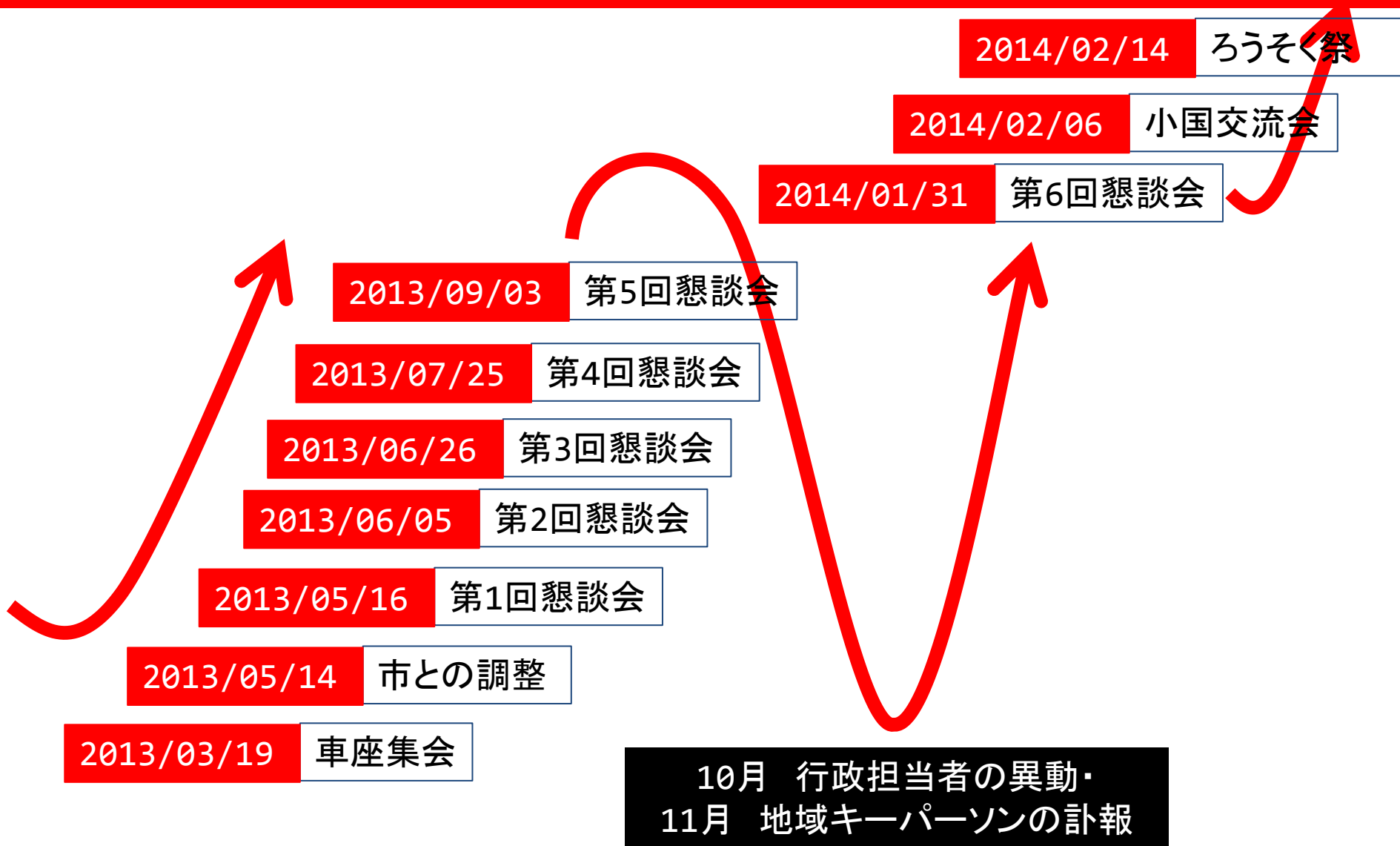
地域と行政による
ビジョンづくり

地域と行政に
外部人材の思いに耳を傾け
自分たちの思いをぶつける
関係がつけられていない

地域と行政による
受入体制づくり

9

相馬地区での模索



10 懇談会の組織・機能の拡充



懇談会からWSへ

話し合いのための話し合い



共に作る場へ

メンバーの適宜拡充

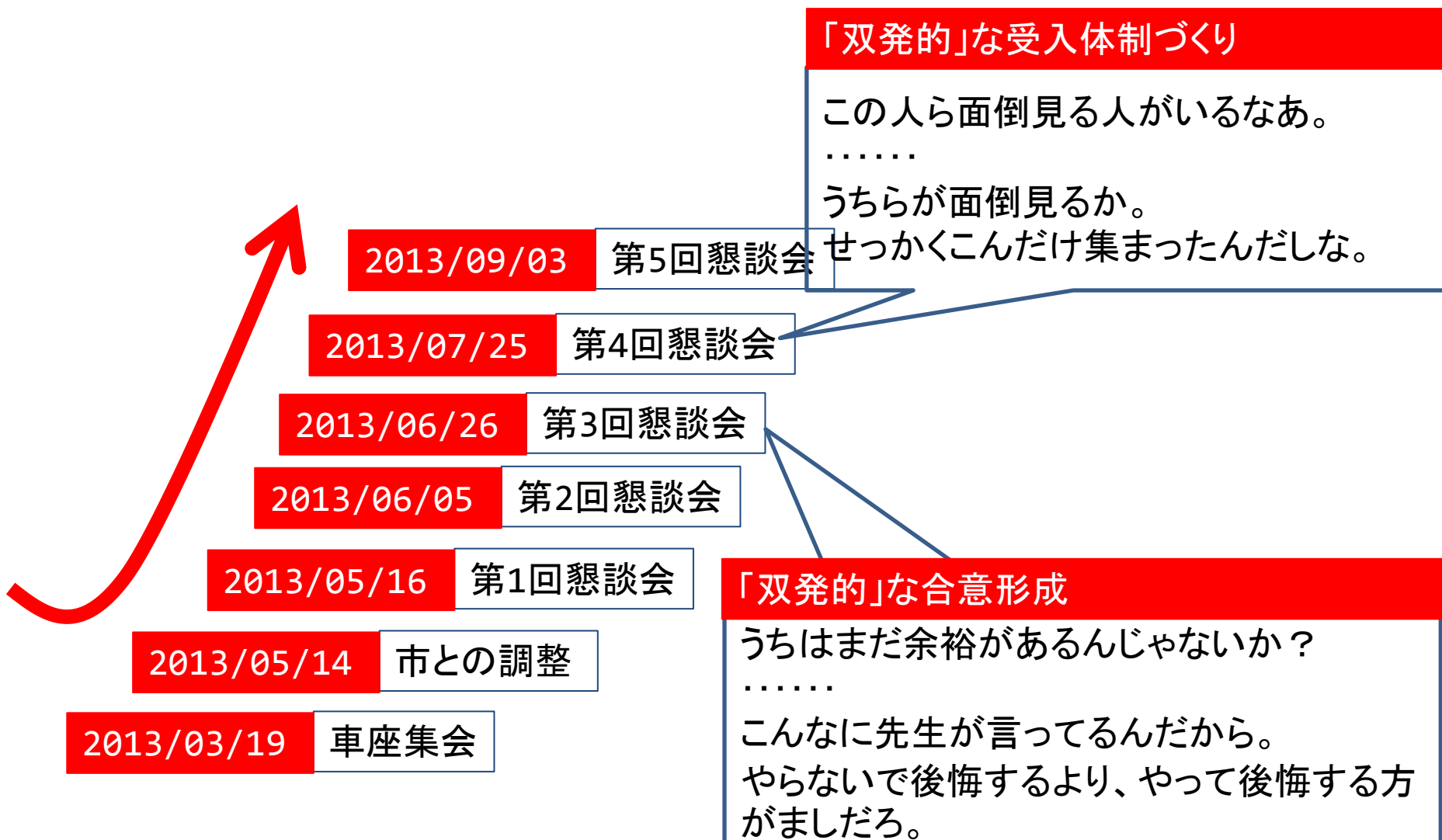
役所の人選・声かけで出発
農協青年部・青年農業者の会
・加工G・認定農業者の会



参加者の勧誘で拡充
農協職員・女性部 等



11 受入体制が作られるまで



12

受入体制の危機と克服

募集要項はほぼ完成
あとはタイミング

2014/01/31 第6回懇談会

2013/09/03 第5回懇談会

国のカネだば無駄にできない。
相馬がモデルにならねば。

公共性の自覚による再統合

津軽農村部での寄合の困難

8月 ねふた/お盆
9-11月 りんご

大学人としての遠慮

忙しいと言われたら
それまで……

10月 行政担当者の異動・
11月 地域キーパーソンの訃報

13 小国との出逢い：小さな拠点へ

山形県小国町小玉川地区
人口約200人・旧小学校区
国交省・**小さな拠点**モデル地区
90年代まで「人口のダム」先進地
10-30代への世代交代が急務

相馬地区
人口約2000人・中学校区
支所新築＝意図せざる**小さな拠点**
交通のハブが交流のハブへ
ねふたを梶子に世代交代が円滑化

地域の熟度を相互で確認

意図せざる強みの自覚化
そのさらなる強化へ

交流の継続の芽

2014/02/06

小国交流会

2014/01/31

第6回懇談会



14

ろうそく祭への参画



2014/02/14

ろうそく祭

2014/01/31

第6回懇談会

院生と留学生

人文学部生と教員・研究員

15 相馬が1つになる意味

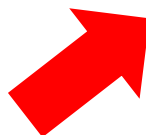
ろうそく祭実行委員会の意味

- (1) オール相馬で
集落を支える
- (2) 農協を核にした
行政・大学との連携



なぜ相馬がモデルなのか

- (1) 明治の旧村(中学校区)
末端集落を支える枠組がある
- (2) 単位農協が生きている
生産組織からの
自治組織再構築が可能

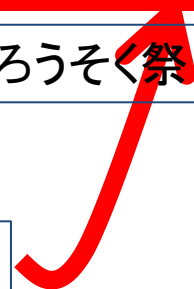


2014/02/14

ろうそく祭

2014/01/31

第6回懇談会



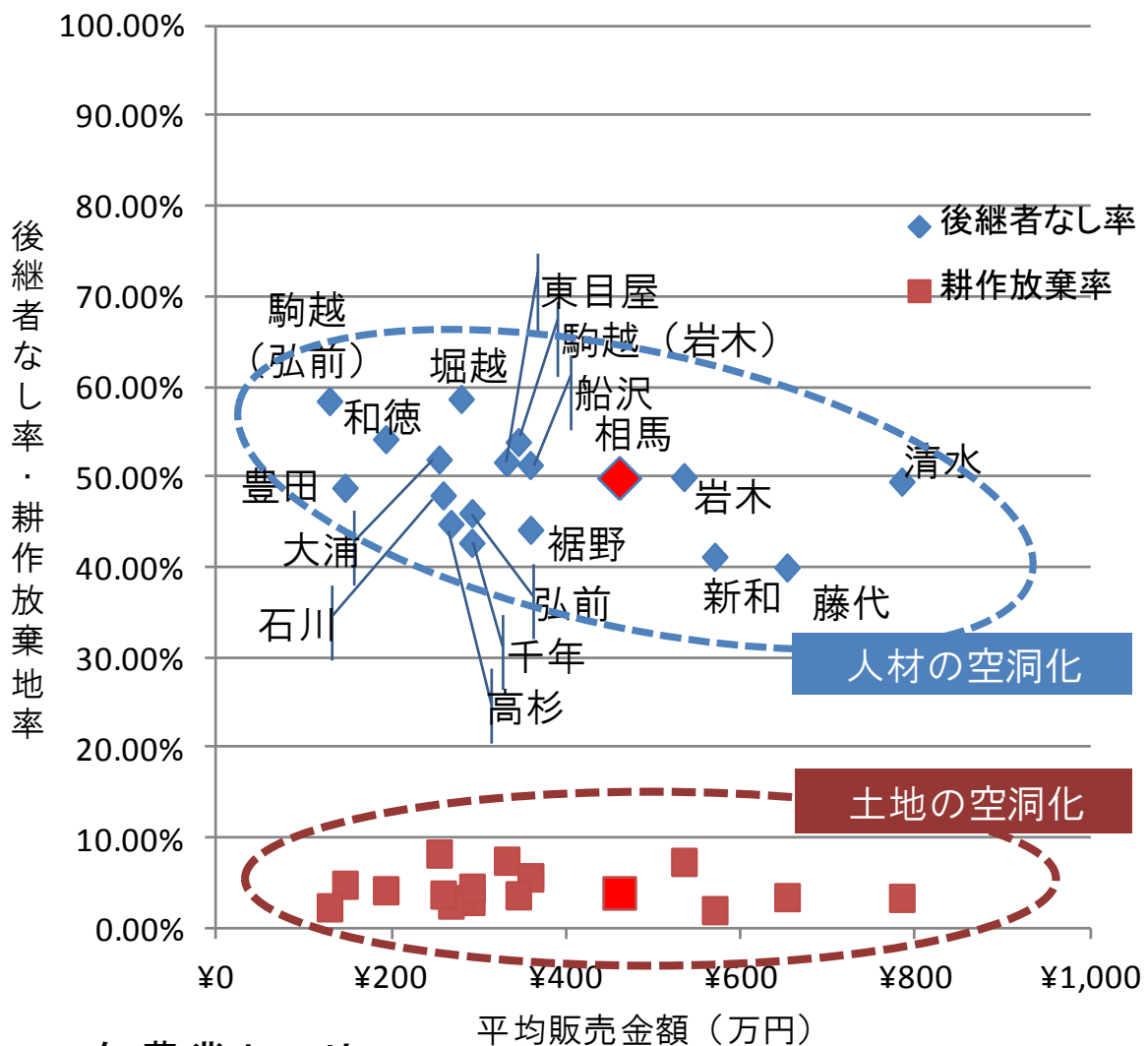
弘前市他地域の可能性

- (1) 中学校区
- (2) 生産組織の強固さ
特に青年団体

青森県事業 農山漁村 「地域経営」のモデル

- (1) 「自治」の具体化
- (2) 大学との連携

16 弘前市他地域の可能性



モデルとしての相馬

人材の空洞化の顕在化から
土地の空洞化の顕在化へ

人材の空洞化と
農業所得との一定の相関
R = .4337

相馬モデルの波及は
人材の空洞化がやや進んだ
船沢、東目屋地区から

17 りんご生産者Fからその先へ

首都圏などの流通や消費の動向を踏まえて、これからのリンゴの生産や販売について意見を出し合う若手生産者ら。9日夜、弘前商工会議所会館



商工会議所主催
りんご生産者フォーラム

JAつがる弘前 青年部有志
高島屋バイヤーとの
ディスカッション

相馬と小国の交流から
小国と鬼沢の交流へ

JA相馬村60周年記念
JA置賜(山形県)とのコラボ

りんご生産者Fの
バージョンアップへ



18 総括 来年度も連携しましょう！

相馬地区での受入体制づくり

- (1)市担当者の異動・キーパーソンの訃報にもかかわらず進んだ。
- (2)地域・行政と大学の「双発的」合意形成の効果が大きかった。
- (3)あとはタイミング。
- (4)受入以降も随時フォローアップで連携を希望する。
- (5)引き続き、オール相馬＝JAを核とする、ろうそく祭を支援する。

相馬モデルの波及にむけて

相馬モデルとは？

- (1)明治の旧村(旧中学校区)が一体となり末端集落を支える。
- (2)生産組織を核に福祉・教育・交通など幅広くカバーする自治組織。

りんご生産者Fの発展

- (1)相馬モデルの市内への波及。
- (2)小さな拠点どうしの広域的な相互支援。

青森県人口減少克服Pとの連携

- (1)地域経営担い手育成との連携
(参考)板柳町WS(3月26日)
- (2)集落経営再生との連携
26年度県内大学で集落点検6地区